

守山まるごと活性化プラン検討委員会（第2回全体会議）議事録

日 時：平成25年10月3日（木）19：30～21：30

場 所：吉身会館

出席者：【委員】：布野委員長、高野副委員長、
河野委員、小西委員、杉田委員、高谷委員、竹村委員、
谷口委員、千代委員、中委員、西田委員、濱崎委員、日下山委員、
布野委員、三品委員、三宅委員、村上委員、山岡委員

【事務局】：宮本市長、島戸政策調整部長、大寄政策調整次長、木村課長、
坪内課長補佐

【その他】：関係職員、コンサルタント

次 第

- (1) あいさつ
- (2) 検討の取組状況について（報告）
- (3) 各学区の活性化の方向性について（協議事項）
- (4) 学区会議に向けて（協議事項）
- (5) その他（事務連絡など）

1 開会

あいさつ（市長、委員長）

2 議事

(1) 検討の取組状況について

布野委員長	学区別の取組状況について、学区別会議のアドバイザーを務めていただいている濱崎委員にコメントをいただいた後、各学区長から補足説明をいただきたい。
濱崎委員	守山学区や吉身学区には歴史的資源が多くあるが、次の手がわかっていて議論を急ぐ部分が見られた。逆に駅から遠い河西学区や中洲学区などでは今まで地区の良さを話す場が少なかったため、これを機会に地区の良さを考えて行こうというゆったりとした雰囲気があり、学区により進め方に違いが見られた。 人、自然、歴史遺産と全学区に共通した課題や特徴も多いが、学区による違いも見られる。
千代委員	守山学区は新旧住民が混在した学区である。新住民は文化的なものには興

	<p>味がないが、旧住民は文化やまつりごとを大事にしている。</p> <p>水に関する関心は全体的に高く、ホテルが生息するまちが重要視されている。また、中山道や伊勢遺跡に対する関心も高い。自治会活動も盛んな学区であり、まちの絆が出来ているのではないか。</p>
濱崎委員	<p>吉身学区は守山学区と比較して同じような意見が上がっているように感じた。</p>
三宅委員	<p>吉身学区は守山学区と似たタイプの学区である。学区がJRで2分されているため、それに関わる課題があがっている。第4回会議でも議論したが、歴史、自然、伝統文化をどう引き継いでいくか、どうPRしていくかが重要となる。宅地造成による自然の喪失、新旧住民の交流など様々な問題を活性化プランでいかにまとめていくか、最終回に向けて検討を進めていく。</p>
三品委員	<p>小津学区のほぼ全体が小津神社の氏子であり、寺はすべて真宗大谷派であることから、学区全体としてまとまっているのが特徴である。一部の新興住宅地で人口が増加しているが、旧住民も多く、比較的まとまった学区である。学区のプランとして上手くまとまるか危惧しているが、活発な意見が交わされ、改めて小津学区の良さを知ることができた。安心して進めていきたい。</p>
布野委員	<p>蓮如は吉崎に行く前に金森を拠点にしたのか。</p>
三品委員	<p>金森から入ったと言われている。</p>
宮本市長	<p>金森は日本初の寺内町と言われている。信長の朱印状があるなど非常に歴史豊かな地域である。</p>
布野委員	<p>小津学区で初めて農業というキーワードが出てきたが、農家も多いのか。</p>
三品委員	<p>集団化されてはいるが、高齢化により農業の担い手が不足していることが課題となっている。</p>
宮本市長	<p>金森や欲賀など一部地域を除いて市街化調整区域指定され開発が抑制されている。</p>
濱崎委員	<p>交通の便の悪さ、少子高齢化、人口減少は市街化調整区域指定が影響しているため、市街化区域に組み込んで欲しいという意見が多くあがっていた。そこまで人口減少が進んでいることに驚いた。</p>
宮本市長	<p>市街化調整区域指定を変更することは非常に難しいが、玉津学区でも石田地区などでは、白地（農用地区域以外）の農地も取り込んで地区計画を活用した開発計画を進めようとしている。</p>
谷口委員	<p>玉津学区は4自治会のみで構成されるため、人のつながりが強いのは当然なことである。伝統行事や祭等に関して近接の小津学区とのつながりもある。東西別院を通じ、寺は守山学区全体とのつながりもある。玉津は琵琶</p>

	<p>湖（大津港）と守山をつなぐ交通の要衝であったことから、舟運で栄えたことを伝える資源が多く残っているため、これらを活用できないかと考えている。人口減少については、地区計画等人口増の計画を検討中である。守山の7つの川全てが赤野井湾に流れ込んでいるので、琵琶湖、川、赤野井湾を活用し、拠点にしていきたいと考えている。</p>
濱崎委員	<p>地域住民の交流が盛んであることが河西学区の特徴となっている。一方で世代間のつながりの希薄化や祭りには参加するが自治会活動への参加が少ないなどが課題として上がっており、偏りがみられるため、そういった意味での人と人との繋がりが課題である。</p> <p>たからものの中にアライグマが挙がっているが、外来種なのでたからものに入れるかどうか検討する必要があるのではないかと。</p>
高野副委員長	<p>河西学区は野洲川とともに生活してきた地域である。活性化についても野洲川を中心とした意見が多くあがっていた。大正時代の野洲川の決壊で犠牲になった慰霊者の100回忌を学区で行ったほど、野洲川とのつながりが強い。笠原の桜を活用して年間を通じて人を集めることができないかということが学区の大きな方向性としてあがっている。都市化も進んでいるが自然豊かで野洲川を中心に自然を生かしていきたいと考えている。</p> <p>また、幼稚園から中学まで1校であるので、父兄の交流がスムーズであるのも特徴となっている。河西学区は旧在所、40年ほど前からの新興住宅地、新しい地域の3地区に分かれおり、人口比率もほぼ同じ割合で推移しているので、新住民を学区の活動にどう取り込んでいくかが大きな課題だと思っている。</p> <p>会議が始まった当初は議論も盛り上がりず心配していたが、会議が進むにつれ議論も非常に活発化しており、最終回に期待している。</p>
濱崎委員	<p>速野学区は恵まれているがそれを活かし切れていないという意見が多く出ていた。</p>
山岡委員	<p>速野学区を構成する10自治会のうち3自治会は新しい自治会で構成され、新興住宅で交流も少ない。学区別会議での議論を通じて、私自身も初めて学区のことを知ることができた。これからの速野学区がどうあるべきか。現在は交流の場が学区民のつどいのみであるが、自治会間の交流が非常に重要ではないかと感じている。</p>
濱崎委員	<p>7学区全てで自然、歴史遺産、人のつながりがたからものとしてあがっている。駅に近い地域人口増加地域、琵琶湖に近い人口減少地域の大きく2つのグループに分かれている。</p> <p>中洲学区でも市街化調整区域が問題になっているという意見が多いのが印</p>

	象に残った。自治会が分散しているのも大変な問題だと認識している。
布野委員長	学区長が欠席であるので、中洲学区にお住まいの河野委員からコメントをいただきたい。
河野委員	<p>中洲学区の立田に住んでいるが、客観的に見て、7つの学区の内一番寂しいのは中洲学区ではないかと思う。琵琶湖改修前は北流と南流の三角洲が中洲であり、伏流水が溢れどこの家にも井戸があり、田んぼも灌漑用水を利用し、水が豊かで団結力のある魅力のある学区であった。</p> <p>昔は速野と中洲は小学校の生徒数がほぼ同数であったが、速野は5～8倍に増加する一方、中洲はどんどん減少している。人口の急激な減少で守山の中で一番問題な地域となっているが、這い上がるポイントはたくさんある。それを活かすことで、中洲学区の住民がイキイキとしてくるのではないかと。中洲学区の住民として少しでも力になりたいと思う。</p>
宮本市長	<p>自治会が分散してまとまりが少ないという課題があったが、野洲川で自治会が分断され、昔は行き来できたのが出来なくなったという意味である。児童数が減少しているのは懸念されるが中洲小学校はしっかり維持していく。地区計画や青地（農業振興地域農用地区域）の農地を転用して住宅開発ができないかという地元からの要望があり、非常に難しいが、県に継続的にお願いしているところである。</p> <p>河川改修が行われていなければ、台風18号で野洲川は確実に決壊し守山は大洪水に見舞われていた。河川改修で犠牲になった上にホテルも失われたように中洲学区は失ったものがあまりにも大きい。中洲のおかげで今の守山の安心安全があるので、中洲の課題はぜひとも解決していかなければならないと考えている。伏流水の問題については、現在琵琶湖河川事務所と野洲川の下から地下水を引くなど方策を検討している。</p>

(2) 各学区の活性化の方向性、学区会議に向けて「活性化のコアとなる取組」や「つなぐ取組」などについて

宮本市長	<p>活性化の方向性についてアドバイスをいただきたい。今後の学区別会議で「活性化のコアとなる取組」や「つなぐ取組」となるような具体の取組について議論いただくことになっている。優先して取り組むべき具体の事項を学区ごとに5～7程度に絞っていただければと思う。その点についてもご意見をいただきたい。</p> <p>自治会組織の機能強化や担い手育成の件は共通事項としてまとめるにしても、丸ごと活性化プランは5～10年程かけて取り組む予定であるので、プランの目玉として取り組むものを絞り、具体性を持って提案していただき</p>
------	--

	取り組んでいきたいと考えている。それについてもご意見をいただきたい。
布野委員長	活性化のコアとなる取組やつなぐ取組などについて、各委員から順番にご意見をいただきたい
村上委員	<p>今日の議論を通じていくつか思いついたことを発表する。最近の若者は農地付きの中古住宅かつ古民家に住みたいという人も多い。過疎化が進む地域において新たな住宅地をつくる手もあるが、農地をつぶして新たな住宅を建てても将来人口減で空き家になるので、そういった無駄なことに投資するよりも、今あるものに手を加えて、自然と触れ合える場を提供して人を呼ぶ手を考えてもいいのではないかな。</p> <p>守山に住んで17年ほどになるが、住んでいても知らないことが多い。多くの守山市民も知らないと思う。地域への愛着や誇りを持つ取組が、地域の活性化につながるのだから、まずは市民に向けてアクションを起こすといいのではないかな。例えば守山フェスティバルを開催して各自治会がPRする場を設け、地域の伝統食や祭をPRし、市民や市外の人に向けて守山を紹介するイベントがあってもいいのではないかなと思う。</p>
日下山委員	都会の方から見れば、稲穂の広がる田んぼの中を歩くなど何気ない風景にも魅力がある。それらを活用したイベントなどで、守山を好きになり住みついてもらうことができればと思う。
西田委員	地域ごとに多くの問題点と良い点があると感じた。いろんな方向に活性化出来る要素があるが、短期とするのか長期戦で実施するのか、地域のたからものからどう特化していくのか。老若男女あらゆる世代で検討が行われる方が次世代につなぐことができるのではないかな。
中委員	<p>びわこ豊穰の郷ではホタルの活動を行っているが、市街地のホタルは自然発生ではなく放流によるものであり、それが果たして良いことなのかと悩んでもいる。しかし、ホタルが飛び交う河川が地域に対する愛着につながっているという意味で、河川に目を向けるためにも、ホタルが飛ぶ環境を整えるのは必要ではないかなと感じている。環境と観光をメインの取組としていく上で、河川においても環境面が整っていない実態をみると、横の繋がりがりも含めて活動を考えないといけないのではないかなと毎年感じている。</p> <p>赤野井湾におけるオオバナミズキンバイの駆除作業を実施しているが、周辺地域である小津学区や玉津学区へのしわ寄せが大きい。これについても守山市民全体で共有する問題として取りあげていかないといけないのではないかなと思う。</p>
竹村委員	公共交通機関について、デマンドタクシーなど北部など不便地に重点的施策を実施してほしい。

	各学区で絆が課題として取りあげられているが、行政でも更なる自治会活動に対する支援に力を入れていけば、人口減も抑制され、守山の魅力が向上するのではないか。
高谷委員	学区委員の方にお礼を申し上げたい。学区で横並びに見ると守山の現状が非常によくわかる。中洲学区と玉津学区は守山の目玉だと思う。活性化という言葉はある意味では少しまずいのではないか。守山市民全体で元気になり、綺麗になり、豊かになるためには、中洲や玉津は宝である。その理由については、時間的制約もあるので、書面で意見や提案を提出するので、次回会議で事務局から配布いただきたい。
杉田委員	京都から 30 数年前に中洲に嫁いできたが、住めば都で田舎なりに楽しみ、地域行事にも参加して守山の良さを実感した。菜まき盆にも参加し、ブラックバス料理や伝統料理の料理講習会などの活動も行っている。参加しなければその良さはわからない。これを機会に地元の良さをもっと知っていただきたい。 対岸の野洲市の中主には住宅が増加している。自分の子供達が帰ってきたいと言っているので、青地（農業振興地域農用地区域）に家を建てられるように頑張っているが、非常に難しくなかなか進まない。
小西委員	守山に来て数十年になるが、自分では知っているつもりでも、知らないことがまだまだたくさんあると実感した。住んでいる吉身東町は来年 30 軒の住宅が建つのを最後に、もう建つ土地がないという地域である。活性化のためには、特徴と課題を地域の皆さんに知っていただくことが第一ではないか。それらを周知し知っていただくことがひとつの課題であり、それが達成されることが活性化につながるのではと思っている。自治会でもさっそく特徴と課題について周知を行い、自治会の活性化から始め、学区や市全体につながるよう努力し頑張っていきたい。
河野委員	守山の活性化については、課題も多いが、大きな可能性を感じる内容でもあった。課題には、市長をはじめ市職員が解決に向けて実施する課題もあるが、市民が動き出して始めて解決する課題もある。学区の代表者がこれほど活発に地元の意見を引き出し、議論が進むとは予想していなかったが、今後も持続的に実施し、活性化に結びつけていくことが重要で、市と市民の両輪で実施していくことが重要ではないかと感じている。
高野副委員長	滋賀県の自治連合会で毎年 1 回地域活動研修会を行っている。今年度は守山市で開催することが決まっており、中洲学区長に発表をお願いしている。私見ではあるが、中洲は他の 6 学区がやっていない非常にユニークな活動を行っているので、それを県下に知らしめたいと発表をお願いした。中洲

	学区はそういうところであると自治連合会長として申し上げたい。
濱崎委員	学区別会議のオブザーバーを引き受けたが、9月までは地元の熱い議論に巻き込まれずあくまでも冷静な目で全体を見る立場として参加していた。今後は学生とともに、積極的に議論の中に入って意見を言わせていただきたい。
宮本市長	今後の進め方について、各学区で5~7プロジェクト程度に絞り込んでいただきたいが、それについてご意見をいただければと思う。
布野委員長	新旧住民の交流や世代間の交流など、課題として出てきてはいるが具体的な施策にはなっていない。そういった細かい取組はいくらあってもいいのではないか。
高野副委員長	丸ごと活性化の取組で取りあげるものと、学区で時間をかけながら取り組むものと2つに分けた方がいいのではないか
布野委員長	あまり制限をつけなくてもいいのではないかとと思うが、学区として具体的な取組はいくつくらい出そうかなど学区長からご意見いただきたい。
山岡委員	速野学区では自治会長同士のつながりはあるが、住民同士のつながりは希薄である。まずは自治会間の交流を深め、歴史や文化を活用する取組を3~5件あげられればいいと思っている。
三宅委員	吉身学区については、今後4つ程度に絞っていこうと考えている。
三品委員	活性化の意味が抽象的で非常にわかりづらい。小津学区については、住民の心をひとつにするための居場所づくりだと理解している。そういった取組を7~8に絞っていききたい。丸ごと活性化プランは5~10年程かけて取り組むという話であったが、一生懸命議論しているのに、10年先に具体化するというのは何をやっているのかわからない。
宮本市長	取組数が多くなるのであれば、10年かかるものも出てくるとは思うが、基本的には5年で具体化していきたいと考えている。
千代委員	守山学区はJRで分断されている。西側には公共施設も多いが、公共施設もない東側の住民が西側の会館を使って取組をする気持ちにはなれないのが現状である。守山学区としてひとつにとりまとめるのは非常に難しい。取組を東と西に分けるのもひとつの方法、学区の編成を変えるのもひとつの方向である。活性化とは地域の住民が住みやすいまちづくりだと理解している。住んで良かったと言われるまちづくりというのは、ひとりひとりが幸福感を持てるアイデアをどう出すか5~6であるのかと考えている。
谷口委員	玉津学区では、大きく2つの取組の方向付けを議論している。地域に伝わる歴史・伝統文化を活かすことであり、人が集まる場所、伝統行事、諏訪屋敷などの歴史遺産を組み合わせ、玉津歴史街道マップを作成し、年間イ

	<p>ベントを毎月実施することがひとつと取組である。もうひとつは、豊かな自然と住みよい地域というテーマで琵琶湖と湖岸を活用する取組である。水と緑に恵まれた四季の季節感を感じられるように、湖岸、琵琶湖、河川、小津のあじさい園を結び体力づくりが出来るような湖周ロードマップ作成の構想を考えている。</p>
高野副委員長	<p>丸ごと活性化の取組は非常に良いチャンスであると考えている。河西学区では丸ごと活性化の中で市全体として活性化を図ることと、学区で個別に検討することの大きく2つに分けて考えようと思っている。市全体として活性化を図る取組は5つくらいでいいのではないか。建設的な意見がある一方後退する意見も出ているが、学区の活性化を図るために引き続き検討し、実行していきたい。</p>
宮本市長	<p>丸ごと活性化プラン検討の中で実施するものは各学区5~7程度とし、学区で取り組むものは個別に整理いただき、継続的にまとめていただくということによろしいか。取組は概ね5年で具体化していきたいと考えている。そういった方向で学区での更なる議論をお願いしたい。</p>